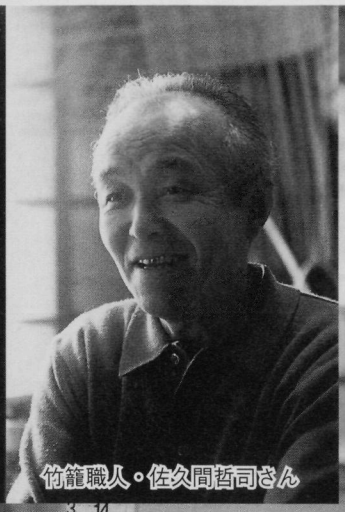
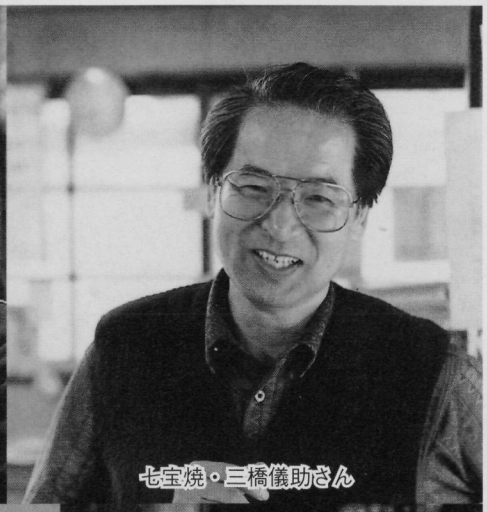
Photo ふなばし

とくしゅう PART1

極める――技に生きる人々――

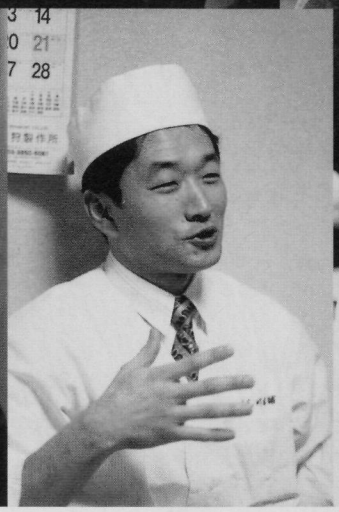
和裁・斎藤とし子さん

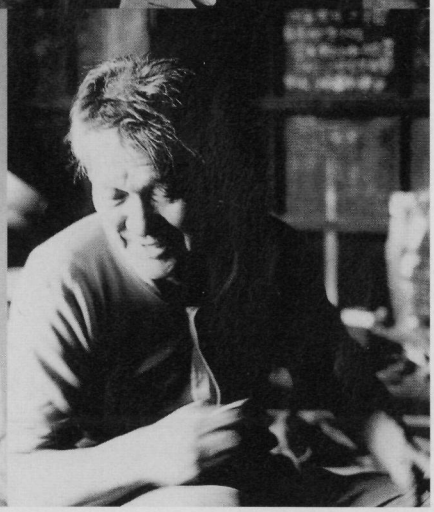

竹籠職人・佐久間哲司さん


七宝焼・三橋儀助さん

装蹄師・福士修逸さん

袋物師・三代目 川村吉之助さん


和菓子職人・桑畑隆寛さん

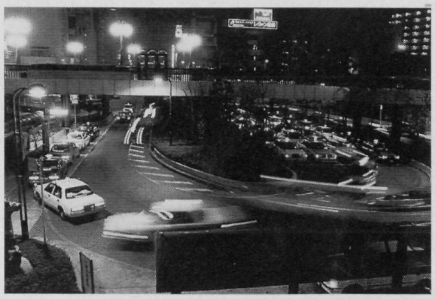

鍛冶職人・小松堅太郎さん

MOVE

コミュニティー・福祉活動の拠点
三山市民センターが間もなくオープン

とくしゅう PART2

写真が描く光と影
ふなばしの夜を見つめて


深夜の船橋駅北口タクシー乗り場

- 市政トピックス
- 街角ホットニュース
- サークル通信
- WE ARE IN FUNABASHI

まちなかの文化財／ふなばしの民話
市民ひとことインタビュー

vol.84
広報ふなばし写真版
3月号

MOVE

コミュニティー・福祉活動の拠点
三山市民センターが 間もなくオープン

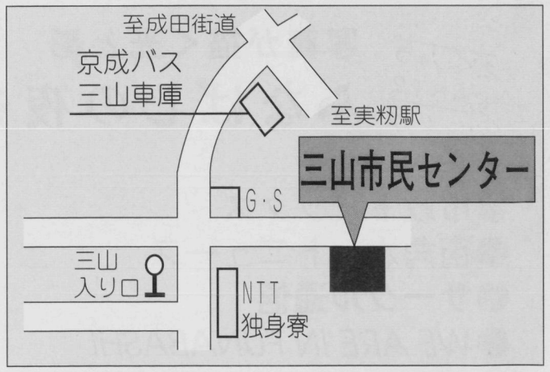
2月7日、市民センターの見学会が行われ、150人の皆さんが参加しました

三山市民センターが、いよいよ4月20日にオープンします。この施設は、市が設置する初めての市民センターです。

1階のコミュニティールームは、町会・自治会や福祉推進団体、各種サークルなどの活動の拠点。地域の皆さんの自主的な運営で、生活と福祉に役立つ様々な事業が進められます。また、調理室、図書コーナーが設置されているほか、三山連絡所が移転します。

2階には、音楽会やダンスなどに利用できる多目的ルームや和室、会議室、視聴覚室、音楽室、軽運動コーナーがあり、3階（屋上）に運動広場が設置されています。

さらに、受水槽に約1,100人の3日分の飲料水を貯えるなど、災害対策施設としての役割も併せもっています。



所在地：船橋市三山8-19-1　☎0474-73-3100

「福祉のまちづくり環境整備指針」を適用し、階段や通路に手すりを設け、廊下の幅を広くするなど、高齢者や障害を持つ皆さんに様々な配慮がされています

※この施設は、平成9年度宝くじの助成を受けて建設されたものです。

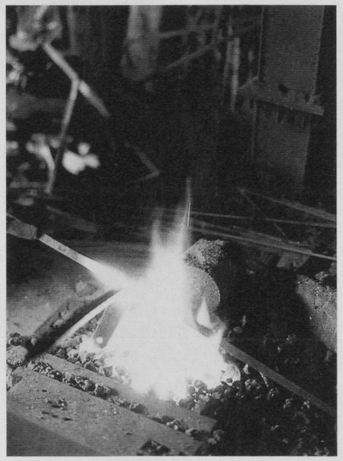
とくしゅう PART1

極める――技に生きる人々――

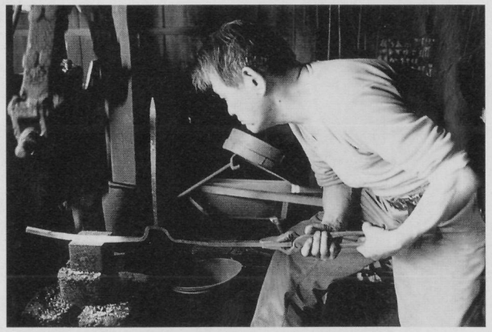
首都圏の中核都市に発展した私たちのまち船橋市。その中で、先人たちが築いてきた「技」を受け継ぎ、守り続けている人々がいます。また、一つの「技」を極めるため、長い間取り組み続けている人々もいます。

今回の特集では、そのような「技に生きる人々」を紹介します。

真っ赤に焼かれた鉄が、小松さんの思うとおりに曲がっていく



コークスで焼かれた鉄は、1,200～1,500度にもなる



「スプリングハンマー」というこの機械ができるまでは、3人がかりで仕事をしていたこともあったそうだ

鍛冶職人

小松堅太郎さん 72歳（宮本6）

真っ赤に焼かれた鉄を金鋏で挟んで金槌を打つ。固い鉄が見事な曲線を描き、だんだんと姿を変えていく。

「継ぎたくはなかったんだけど、親がやれって言うもんだからね」。小松さんが父親のあとを継いで51年になる。太い腕とつやのある肌、そして鋭い眼光はとても72歳には見えない。

小松さんが作っている鍬や万能などの農具は、金物屋に卸すのではなく、直接、農家の方が買いにくる。「お客の住んでいる土地によって耕す深さが違うんだ。だから、その土地にあわせて鍬の角度や大きさを変えるんだよ」と、力強く金槌を降りおろしながら答えてくれた。

農具が良く切れるか、切れないかは、角度が肝心。お客から良く切れるよと言われるのが一番嬉しいと言う。昔は、とても忙しくて、朝5時から働いていたが、最近は農業の機械化が進んで仕事がだいぶ減ったそうだ。だが、長年、小松さんの鍬を使っているお客さんが、それを直しに来てくれるのは、とてもありがたいと目を細めてくれた。

袋物師

三代目　川村吉之助さん 60歳（宮本4）

川村さんが作り上げた、和装、洋装のハンドバッグ

「女性の靴の爪先や車のデザインが、新しいバッグのヒントになることもあります」

袋物師の中で、明治7年に日本で最も早くハンドバッグを手掛けたのが初代吉之助だった。

川村さんは、小学3年生のころから二代目である父の仕事を手伝い、高校卒業時には、型紙さえあればすべて作れるようになっていた。「一日中あぐらをかいての作業は、本当につらい仕事でしたが、得意先の信用を得ようと一生懸命でしたね」

「先代の技を守るのは、三代目の私の役目です」と、力強く語る川村さん。作り上げるバッグは、すべて三代目吉之助こだわりの作品である。仕入れからデザイン、制作まで一人でこなし、その出来映えは、皇室にも愛用されるほど。

「めったにない極上の佐賀錦（生地）が手に入ったとき、袋物師としての喜びを感じます」。そんな言葉から、かたくなな職人気質が感じられた。

七宝焼

三橋儀助さん 58歳（海神2）

鮮やかなブローチの数々。ほかにペンダントやイヤリング、ブレスレットなども作り出される

「釉薬を何度も重ねて焼くと、きれいで深みのある色が出るんですよ」。七宝焼のブローチを前に三橋さんは語った。

父親は、装飾用の鎖をつくる飾り職人だった。しかし、三橋さんが受け継いだ家業は、昭和46年のドルショックで大打撃を受けた。そこで、鎖に何か装飾物をつけて売れないかと考えた。プラスチックや石などで試行錯誤を繰り返し、やっと七宝焼にたどり着いた。「七宝焼は、全くの独学です。最初は、色がきれいに出ないで失敗ばかりでした」。しかし、独自のデザイン、手作りにこだわった作品は、今では全国のデパートなどで販売されている。

「まちで何十年も前の自分の作品に出会うことがあります。恥ずかしいけれど大変うれしいものですね」。三橋さんの技は、さらに磨きがかかり、作り出される七宝焼の美しさも、さらに輝きを増すことだろう。

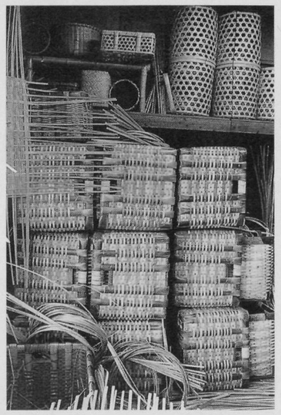
真剣な表情で釉薬を塗る三橋さん

70数種類の釉薬。混ぜ方で微妙な色が出るが、経験と勘がすべてと言う

竹籠職人

佐久間哲司さん 65歳（東船橋1）

籠を回しながら竹を編み込んでいく佐久間さん。いい竹を得るために年に数回、山を見に行くという



作業場の片隅に積み上げられた完成品

竹を磨いて、一定の幅に割り、さらに薄く皮と身に分ける。それを素早くリズミカルに、格子状に編み込んでいく。佐久間さんは、12歳のころ、家業の竹籠づくりを始めた。

「毎日、同じように作っていても、二つとして同じ物はできないね」という竹籠から、懐かしさとぬくもりを感じる。

ダンボールやプラスチック製品の普及で需要が減ったが、最近は、煎餅やお茶屋さんの商品ディスプレイ用にも使われるようになり、竹籠の用途も変わってきたという。「通りかかった母親が、この籠を『大きな箱ね』と子どもに話したのを聞いて、時代が変わったのを感じたよ。竹籠を知らないんだね」と苦笑い。

いつまでこの仕事を続けますかと聞くと「急にやめると、いつも使ってくれている人が困るからねえ」と微笑んでくれた。

下から4番目は、日本刀を折って作った、竹を割る道具。3代にわたって使い込まれている

和裁

斎藤とし子さん 73歳（東船橋7）

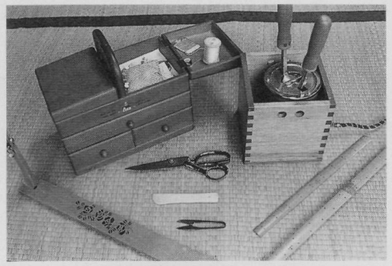
一寸に10針縫うという丁寧な仕立てで着物を仕上げていく

「着物の美しさを再認識し、永く未来に受け継がせたいですね」。50余年にわたって、和裁の道一筋に歩んでいる斎藤さんは、千葉県和裁連合会の会長を務めている。

母親に勧められて、16歳で和裁女子養成所に学び、卒業後に和裁教室を開業。昭和47年に県下で初めての和裁1級技能検定合格者となった。

平成3年には"県卓越技能・現代の名工"を受賞した。「難しいのは、つま縫いと襟付けです。そして、剣先がまっすぐにできていることが肝心です」と、穏やかに話す斎藤さん。一寸に10針縫うという細やかな縫い目で着物を仕立てていく。

また、最近の人にも受け入れてもらおうと、正装に着用できる留袖訪問着二部式（上下が分かれているので着付けが簡単）などを考案。従来の概念にとらわれない着物づくりにも挑戦している。



和裁に使われる道具の数々

自宅の「斎藤きもの園」で、生徒に指導する斎藤さん

和菓子職人

桑畑隆寛さん 36歳（薬円台5）

「小学生のころから遊び半分にお菓子を作っていました。家の手伝いをしてるうちに、自然に父と同じ道を歩んでいましたね」と話す桑畑さん。菓子づくりは、初め父から学び、その後3年間外に出て修行、現在、父の跡を継いで「よし川本舗」の2代目となっている。

常に和菓子の研究は怠らない。花や鳥を観察して、色や形の参考にする。旅先でおいしいお菓子に出会うと、直接主人に作り方を尋ねる。寝ているときに新しいデザインを思いつくこともある。「だから、お客さんにおいしいとか、きれいだねとか言われるのが一番うれしいです」

これからは、若い人に受け入れられるような菓子を作りたいという桑畑さん。「店や技を継ぐのではなく、親父と違う新境地を開きたいんです」と、熱く語ってくれた。

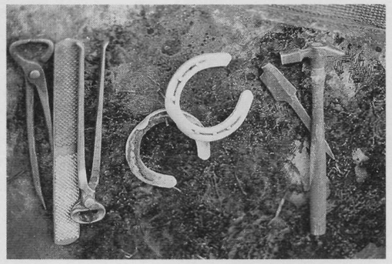
日本菓業振興会の研究会に出品した工芸菓子。一つの作品を作り上げるのに1週間かかるという

毎日の気温、湿度の変化に合わせて、微妙に練り加減などを変えていく

装蹄師

福士修逸さん 48歳（船橋競馬場）

平らに削った爪に、蹄鉄を釘で止めていく

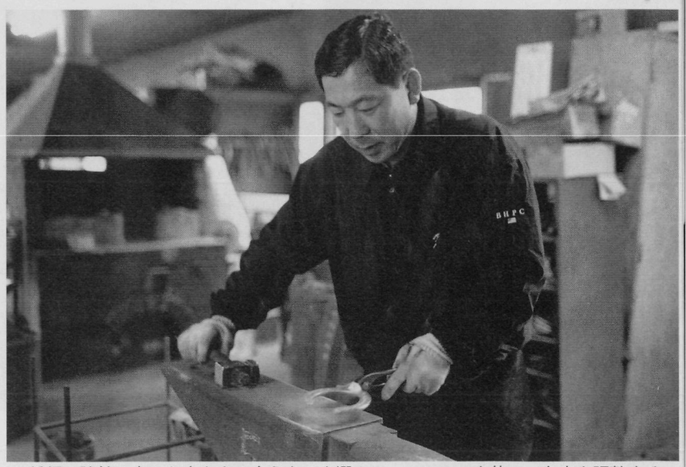


使い込まれた道具

蹄鉄に向けられた鋭い視線は、コンマ数ミリの狂いを見抜き、振り下ろされた手槌は、福士さんの意志を受けて微妙な調整を鉄に伝える。少しの狂いが脚の故障につながるこの厳しい世界に身を置いたのは、今から27年前。父の後継者としてその技術を磨いてきた。

「蹄鉄の調整だけでなく、馬によって爪の大きさや角度が違うので、爪を削るのも難しい」と語る福士さん。減り具合にもよるが、3週間に1回程度蹄鉄を換えるので、その度ごとに神経をすり減らすことになる。「でも、苦労した馬や故障明けの馬がレースで勝つと、たまらなく嬉しい」と言う言葉には、馬に対する愛情の大きさがにじむ。

「夢は?」の問いかけに「世界一周すること」と語るその目は、仕事の時には決して見せることのない優しいものだった。



8種類の蹄鉄の中から大きさの合うものを選んで、ハンマーを使って角度を調整する

とくしゅう PART2

写真が描く光と影 ふなばしの夜を見つめて

美しい光の帯を描く京葉道路（15秒露光）

西の空に夕日が沈み、夕闇が船橋のまちを包み始める。繁華街のネオンや街路灯に明かりがともり、まちは朝とは違った活気を帯びてくる。

駅周辺は、足早に家路を急ぐ人や待ち合わせをしている人たちであふれている。京葉道路や東関東自動車道では、車のヘッドライトが光の帯を作り、幻想的な雰囲気を醸し出す。

やがて、夜が深まり、人通りも、車の数も少なくなってきた。まちが漸く落ちつきを取り戻そうとしている。

その一方で、夜を徹して仕事を続ける人々の姿もあった。道路工事や鉄道の保線作業等々。

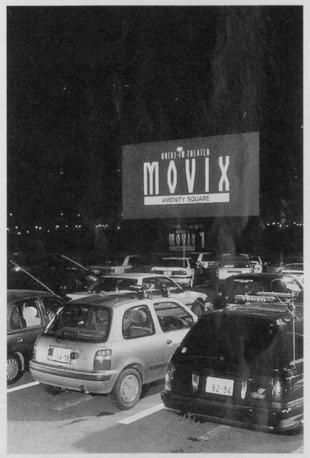
様々な表情を見せる船橋の夜の風景を、白黒写真で描いてみたいと思い、カメラを手にした。

船橋駅北口の「おまつり広場」は、夜になると百貨店や街灯の照明でライトアップされる

365日、24時間体制で郵便物が仕分けられる（船橋郵便局）

帰宅を急ぐ人の波が絶えない、JR船橋駅南口（8秒露光）

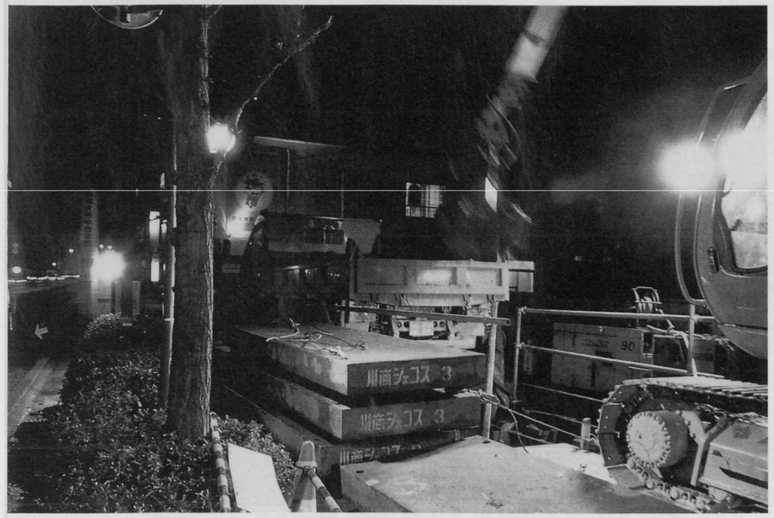
仕事を持ちながら、それぞれが目標を持って勉強に励んでいる（県立船橋高校定時制）



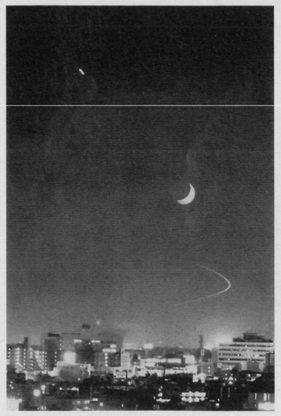
車に乗ったまま映画が楽しめる「ドライブインシアターMOVIX」（浜町2）

京成本線を立体交差にする工事も進められている

深夜0時の中央卸売市場。食料品を積んだトラックが激しく行き交う



交通量の多い場所は、夜間に工事が行われる（市場3丁目付近の下水道工事）



総合教育センターから市街地を望む（撮影：髙 誠司さん・松が丘）

市政トピックス

本町地区で第2回市政懇談会
市民の声をまちづくりに

本町地区の代表の皆さんから、様々な意見や要望が述べられました

藤代孝七市長をはじめ、助役や各部長が出席しました

市では、市民の皆さんの声を市政に取り入れるとともに、市政に関心を持っていただこうと、市政懇談会を開催しています。2月21日には、中央公民館で本町地区の懇談会が開かれました。

当日は、藤代孝七市長をはじめとする市の幹部職員と、町会・自治会の代表者など90人が出席。道路や防災、再開発など地域に密着したことから、福祉など全市的なことまで、様々な問題について質疑応答が行われました。

次回は、3月28日に本中山地区の懇談会を、小栗原小学校で開催します。

ヘルシー船橋フェア
いきいき家族の健康作戦

健康についての様々な情報を提供しているヘルシー船橋フェア。11回目となった今年も、2月13日から17日まで東武百貨店船橋店のイベントプラザで開催されました。

この催しは、市と医師会、歯科医師会、薬剤師会が協力して実施しているもの。会場に設けられた医療、保健の各種相談コーナーや、体力測定、血液検査が受けられるヘルシーチェックコーナーなどに、大勢の人たちが訪れました。

また、イベントコーナーでは、心肺蘇生法の体験や、健康についての講演、健康体操などが行われ、参加した皆さんが熱心に受講していました。

保健婦による健康相談コーナー▶

イベントコーナーでは心肺蘇生法の体験など、たくさんの催しが行われました

船橋ゆかりの芸術家展
幻想的なガラスの世界

船橋にゆかりのある芸術家の作品を紹介するこの展覧会。今年は、市内印内に住む藤田潤さんのガラス展が、2月27日から3月8日まで、市民ギャラリーで開かれました。

藤田さんは、新進気鋭のガラス工芸作家として、「'96日本のガラス展」でブリヂストン美術館賞を受賞するなど、高い評価を受けています。今回の作品展では、非日常的な雰囲気を持った作品47点を展示。訪れた皆さんは、その美しい世界に見入っていました。

「内省（メディテーション）と浄化（カタルシス）」と題した、幻想的なガラス展

◀ガラス工芸作品の制作過程を記録したビデオも上映されました

特殊教育の合同発表会
スポットライトに輝く笑顔

27校の特殊学級、養護学校の子どもたちが、元気いっぱいの舞台を披露

ロビーでは、子どもたちも一緒になって、作業学習で作られた作品を販売▶

市内小・中学校の特殊学級や養護学校に通う子どもたちが一堂に会し、演劇などを披露する合同発表会が、2月21日、市民文化ホールで行われました。

演じたのは、童話を題材にしたミュージカルや、歌あり踊りありのオペレッタ、民族楽器の演奏など盛りだくさん。満員の会場からは、舞台の音楽に合わせて手拍子が送られ、子どもたちは笑顔いっぱいに、力のこもった演技や演奏を披露していました。

また、ロビーでは、授業で制作した作品の展示と販売が行われ、丁寧に仕上げられた木工製品や小物袋などを、多くの皆さんが買い求めていました。

まちなかの文化財
妙行寺（みょうぎょうじ）
（市川市原木）

原木山妙行寺は本堂も山門も百年程前の新しい建築だが、その開創年代は古く、天文年間、遠く戦国の世に日進上人開基と伝えている。以来、三十六、七世の代に堂塔の整備が成り、途中、寛政三年（一七九一）の大洪水による原木村全滅、寺も運命を共にしたかに思える災害などもあったが、代々の住持、篤信者の努力により今日の寺運を開いてきた。

ところで妙行寺は市川市域である。その点から云えば「まちなかの文化財」という場合、船橋からみれば書かずもがな、市川からみれば他人様の土地まで踏み込んでとなるかも知れない。が、信仰の面から云ったら船橋だ市川だという行政境のことなど話が小さい。何せ西船橋駅を出た東西線がさっと原木を通過し、最初の停車駅「原木中山」は市川市域ではなくって、船橋市本中山七丁目の区域内にある。その中間に妙行寺の甍が聳える。

旧行徳街道（船橋海神－市川行徳）沿いの北側に面して入口の山門、中の山門を経、本堂まで一直線の参道――本堂の大きな入母屋造本瓦葺、唐破風向拝、それに重なる千鳥破風の景観が印象的。さらに中の山門の扉、本堂の欄間、柱等の彫刻－日暮れ間近、眺めて飽かせぬ見事な出来映え。（文・大木　勲）

見事な彫刻が施された本堂の欄間

妙行寺本堂

市内3か所で自治会館竣工
地域活動の拠点に

鈴身町自治会館

鈴身町会と鈴身第二町会の活動の拠点施設となる、鈴身町自治会館の竣工式が2月22日に行われました。これまでの会館は昭和44年に建設されたもので、老朽化にともなってこのほど建て替えられました。

当日の式典では、会館の建設に携わってきた建設委員から、これまでの経過報告とあわせて建設にまつわる苦労話などが披露されました。

このほか、2月7日には湊町第八自治会館、また、2月15日には飯山満地区4町会合同の自治会館（あさはや会館）の竣工式も行われました。

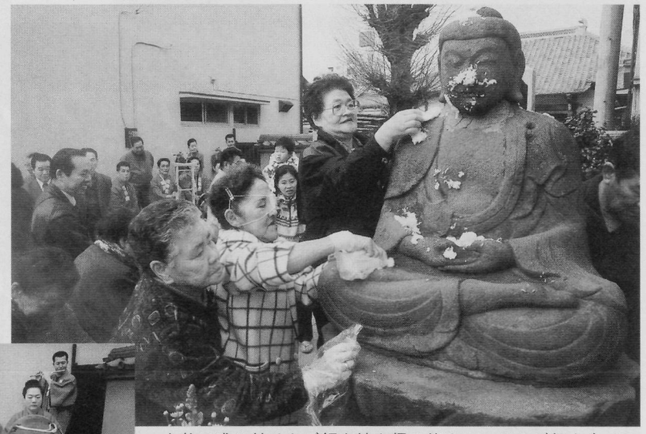
伝統行事

大仏追善供養
江戸時代の歴史を今に

まだ肌寒い陽気の中、大勢の人たちが集まって、大仏に白米の飯を盛り上げるように付けていました。

2月28日、本町3丁目の不動院で大仏追善供養が行われました。これは、漁場争いが絶えなかったころ、命がけで船橋の漁場を守り、牢内で亡くなった二人の漁師を供養するために、文政8年（1825年）から毎年行われています。

大仏にご飯を付ける行為は、牢内で食が乏しかったのを償うためということで、このような行事は全国的にも珍しいものです。

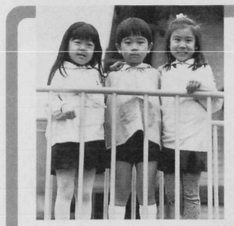


大仏に盛り付けたご飯を持ち帰る皆さん。このご飯を食べると、無病息災の御利益があると言われています

追善供養のためのお囃子も披露されました

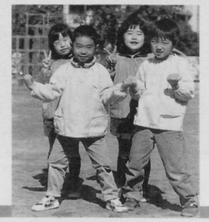
市民ひとことインタビュー

テーマ 小学一年生になったら？



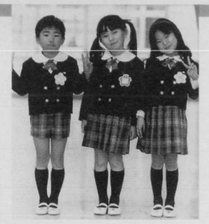
勉強と跳び箱をがんばりたい。友達も100人つくりたい

三井裕美子ちゃん、金山考二くん
松村沙弥ちゃん（瑞穂幼稚園）



国語と算数と図工の勉強と、サッカーをやりたい

忍田拓弥くん、小川恵令奈ちゃん
山下夏奈ちゃん、蜂谷拓馬くん
（みどり台幼稚園）



勉強をたくさんして、テストで100点とりたい

鈴木美菜ちゃん
葛馬敏道くん
宮崎愛ちゃん
（古和釜幼稚園）

いっぱいお友達をつくりたいです

加藤有樹くん
在原千尋ちゃん（山野幼稚園）
小坂真美ちゃん

水泳とかバスケットとか、いろんなスポーツをやってみたいです

丹羽克寿くん、尾台万里菜ちゃん
田島水樹くん（葛飾幼稚園）

塚田ふれあい福祉まつり
子どもからお年寄りまで楽しく交流

2階講堂のふれあい広場で、塚田小学校吹奏楽部の皆さんが見事な演奏を披露しました

アイマスクをして、目の不自由な人の世界を体験

塚田地区の福祉の向上を図ろうと、様々な事業を展開している塚田福祉ネットワーク推進委員会が、3月1日、塚田ふれあい福祉まつりを開催しました。

会場となった塚田公民館・児童ホームに、在宅介護、健康相談、ゲーム、ごみと環境、模擬店などたくさんのコーナーを設置。あいにくの雪にもかかわらず、子どもからお年寄りまで大勢の皆さんが訪れて交流を図りました。

また、講堂では、地域の小学校や福祉施設の子どもたちが、合奏や演劇を披露し、会場から大きな拍手が送られました。

第19回初春茶会
茶華道センターで華やかに

船橋市茶道連盟が毎年開催している初春茶会が、今年も2月7・8日に行われました。

会場となったのは、3つの本格的な茶室を備えた茶華道センター。2日間にわたって表千家、裏千家、諸流から2席ずつのお茶席が設けられました。

当日は、初春の茶会にふさわしく、晴れ着姿の女性など、茶道を愛好する皆さんが来場。終始なごやかな雰囲気の中で、ゆったりとお茶を味わっていました。

和やかな雰囲気の中、2日間で640人の皆さんが、ゆっくりとお茶の味を楽しんでいました

ふなばしの民話

地名「見目好し」のいわれ

文・村上昭三

むかし、江戸時代も八代将軍として名高い吉宗公にまつわる話だそうです。

時節は冬のある日、江戸城中で、幕政改革で多忙の吉宗公が近習に向かって

「近く、下総の行徳に鷹狩りに行くから準備せよ」

と、まさに鶴の一声宜しく言って命じました。

そして当日、吉宗公は小人数の共を連れ、江戸川を渡り、行徳にやって来ました。この日はからりと晴れ、天気は上々でした。吉宗公は、江戸湾岸沿いに東に向かって鷹狩りを始めました。

獲物は主に鴨でした。鷹は時折野兎も捕って来ました。吉宗公は道々

「天気もよいし、獲物も多く、最高の日じゃ」

と言いながら、ついつい足を更に進め、船橋の宿場の近くまでやって来ました。

そこは、海神村の南端（現・南海神二丁目地先）の一角の谷地でした。そして、この土地の南側には防潮堤が築かれ、その堤の上に防風林として男松が植林され、また、その先の一部から山野濤が延びていました。

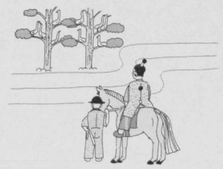
吉宗公は、この土地の端ではたと立ち止まりました。堤の上に連なる松の枝々で何百羽もの白鷺が羽を休める様子をよくよく眺め

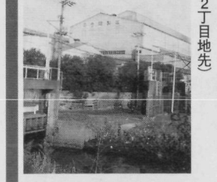
「おお、これは見目好し哉」

と、その美しさに感嘆の声を挙げました。

それから、ここで休息をとり、その間も前面に群をなす白鷺の光景を堪能していました。やがて、吉宗公は鷹狩りを打ち切り、この日の手伝いに出ていた付近の村人達の見送りを受け、江戸へ帰って行きました。

後に残った村人達は、吉宗公のこの日の様子を一部始終見ていて、特に繰り返し感嘆して言った「見目好し哉」の言葉が、頭の中に強く残りました。そのため、その後この土地を、誰言うとなく、「見目好し」と呼ぶようになったということです。この土地の周りの村人達の間では、「みめ」が「めめ」に訛り、「目目好し」と呼ぶ人もあったということです。





かつての「見目好し」の土地の現況（南海神2丁目地先）

あい・らぶ・ふなばし

日本は季節感があっていいですね

常銀鳳さん（田喜野井）

「来日した時は、街灯やネオンなどの光で、夜が明るいのに驚きました」と、流ちょうな日本語で語る常さんは、中国の寧夏回族自治区出身。内モンゴルに近い場所で、広々とした砂漠だそうです。

風が吹くと砂嵐になるので、みんな外出するときは、スカーフとサングラスを着用して出かけるとか。「だから、近づいてもだれだか分からないときもあるんですよ。そんな町なので、緑や花といったものをあんまり見たことがないんです。日本は季節感があっていいですね」とにっこり。

中国で小児科医として働いていた常さんは、93にご主人の仕事の関係で来日。95年から友人の紹介で東邦大学薬学部へ通い、植物の研究をしています。月曜日から土曜日まで、研究の毎日だそうです。「新たな発見があると楽しいんですよ。だんだん興味もわいてきたので、もっと深く勉強したいですね」

休日には、浦安や幕張メッセなど、海の見えるまちへ行くのが大好きという常さん。将来の目標を尋ねると、「製薬会社など、今まで勉強してきたことを生かせる職場に勤められればいいですね」と、にこやかに語っていました。

ズームアップ

犬の気持ちを把握することが大切ですね

犬の訓練士 市川久実さん（芝山）

「冷静に叱ることを心掛けています」と市川さん

愛犬「マリン」に足跡追求の訓練を行っています

「くみドッグスクール」。市川さんが自宅に掲げている看板だ。日ごろは「すわれ」、「伏せ」、「待て」などの基礎訓練を家庭犬対象に出張で教えている。「自分の訓練施設を早く持ちたいですね」と力強く話してくれた。また、市川さんは警察犬訓練士でもある。千葉県警から行方不明者の捜索などの出動要請があれば、嘱託警察犬でもある愛犬「マリン」とともに活躍している。

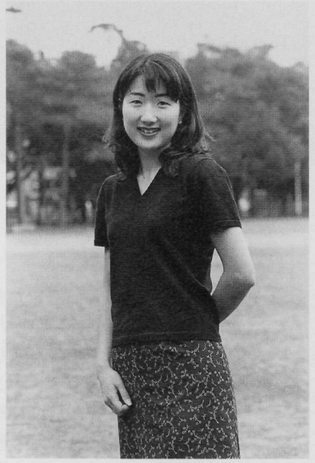
市川さんは船橋芝山高校時代、陸上部に在籍。高校2年生のときは七種競技で関東大会で5位に入賞するなど活躍していた。そんなある日、雑誌で犬の訓練士のことを初めて知った。動物好きの市川さんは、9年前に市内の犬の訓練所に就職。「夏は朝4時前、冬でも5時には起きて、犬に散歩をさせました。犬舎の掃除、訓練、排便など、一日中犬といっしょに生活していたので、月に1回ぐらいしか休めませんでした」。そういう生活に同僚も次々にやめていった。「私も、何度もやめようと思いましたが、お世話になっている訓練所のご主人や奥さん、周りの人に励まされておかげで続けられました」

この訓練所は、家庭犬の訓練のほか、千葉県警から警察犬のための高度な訓練も委嘱されていた。市川さんも、就職後2年程経つと、訓練競技会に参加するようになった。「訓練を始めた最初のころ、犬に噛まれたことがありました。とてもショックでしたが、その犬の性格や気持ちをよく把握することの大切さを知りました」

6年間の修行を終え、一人前の訓練士に成長した市川さんは、シェパードの「マリン」とともに独立。忙しい仕事の合間に訓練に励んだ。そして、昨年11月、千葉県警嘱託警察犬訓練競技会の臭気選別の部で優勝、足跡追求の部で第3位となった。

「目標は、毎年10月に長野県の霧ヶ峰で行われている日本訓練チャンピオンで上位入賞することです」。マリンを訓練する市川さんの姿から、あふれるばかりのパワーと犬たちへの限りない愛情を感じた。

まい・ふぁっしょん



興松知子さん（飯山満町）

紺のニットに、パープルのスカートで登場した興松さん。

「スカート丈は今年の流行を意識して、少し長めなんです。でも、流行だけを追うのではなく、ベーシックな中にはやりのものを取り入れて、自分のスタイルにしていくように心掛けています」

年をとったら自分のカフェを持ちたいと、夢を語ってくれました。

あとがき

昭和59年6月の創刊以来、14年間にわたってご愛読いただいた『Photoふなばし』は、今号をもって廃刊とさせていただきます。

本誌は、市政やまち中の出来事、船橋の様々な表情などを写真中心に掲載し、若い人からお年寄りまで、気軽に見られる広報誌となるように心掛けて編集してきました。

また、これまで掲載した写真は、全国広報コンクールでも、平成2年に特選、6年に第6席、8年に第3席を受賞するなどの評価を得ました。

これも、町会・自治会の皆さんをはじめ、たくさんの市民の皆さんのご理解とご協力によるものと、深く感謝申し上げます。

今後も、『広報ふなばし』はもちろん、千葉テレビやCATVのテレビ広報など、様々な媒体を利用して情報を提供していきます。（し）

ハローBaby

川口詩菜ちゃん（前原西）

平成9年2月25日生

パパとママから一言

「雪だるまとどっちが丸いかな？来年は雪合戦しようね」

みんなの広場 サークル通信

❶発足年月日 ❷活動場所 ❸活動日 ❹会員数 ❺連絡先

塚田琴船会

私たちと一緒に大正琴を演奏しませんか

「みんなで合奏するのは楽しいですよ」と皆さん

①平成5年4月
②塚田公民館、
③第1・3火曜日（13時～15時30分）
④11人
⑤丸山光子 ☎34-3724

丸山茶道クラブ

とても和やかな雰囲気のサークルです。現在会員を募集しています

お茶のお稽古のほかに、茶杓削りなどもします

①昭和63年10月
②丸山公民館
③月4回火曜日（13時～16時）
④12人
⑤坂口チアキ ☎95-8579

ジャギーダンスサークル

笑顔があふれるサークルです。皆さんも一緒に踊りませんか

ジャギーは、ジャズダンスにストレッチを取り入れたものです

①平成3年10月
②西部公民館
③毎週金曜日（10時15分～12時）
④10人
⑤荒生恵子 ☎047-332-8014

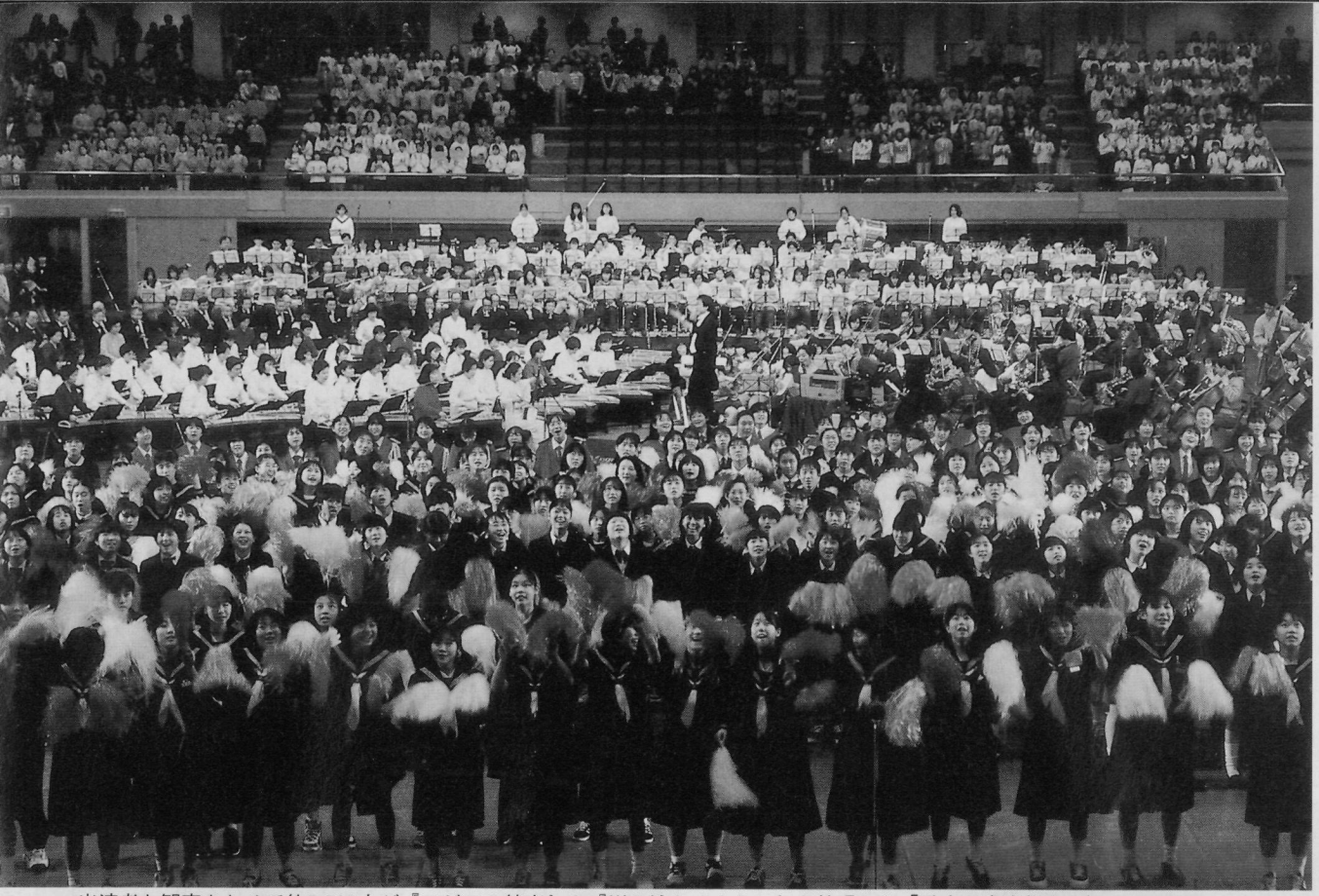
ハーモニカポエム

ハーモニーを和気あいあいと楽しんでいます

ストリートコンサートなど、各地でチャリティー演奏会を行っています

①平成4年11月
②習志野台公民館
③第1・3木曜日（13時30分～16時）
④19人
⑤小貝圭子 ☎64-1217

ふなばし音楽フェスティバル
各地で様々なコンサートを開催



出演者と観客あわせて約5,000人が『アジアの純真』や『川の流れのように』を熱唱した「千人の音楽祭 '98」のフィナーレ

気軽に音楽に触れていただこうと、今年も音楽月間の2月、「ふなばし音楽フェスティバル'98」と題して様々なイベントが市内各地で開催されました。シャンソンとカンツォーネの競演や軽快なビッグ・バンドの演奏などジャンルも様々。

なかでも、2月15日に船橋アリーナで行われた「千人の音楽祭'98」は、市内最大の音楽イベントです。当日は、市内で活動しているオーケストラ、吹奏楽団、合唱団など、小学生から大人まで総勢2,000人が一堂に集まり、迫力のある演奏と元気な歌声を、会場いっぱいに響かせていました。

2月7日の「春待ちコンサートinかつしか」では、シャンソンとカンツォーネの競演が行われました

2月28日に行われた「コンサートinたかね台」では、渡辺香津美さんのギターと谷川公子さんのピアノによる流麗なデュオが会場の皆さんを魅了していました

2月8日に行われた「バンドスタンド船橋'98」